特集：大学説明会

卒業後の進路の説明　―報告と反省―

佐藤　忍　（筑波大学 生物科学系）

資料（ＯＨＰ）を示しながら、以下の説明を約15分間で行った。

以下の表に示すように、生物学類では卒業生の80%以上が進学しており、この進学率は大学全体でもずば抜けて高い。その理由は、現在の生物学が今まさに飛躍的に発展しつつあり、大学院に進んでさらに見識を深めることが、生物学を生かした研究職（企業も含む）に就職をするためには必要であるからである。

生物学類卒業生の進路（平成13年度）　平成14年5月1日現在

卒業生	進学（博士・修士）	企業	教員	公務員	その他
83（35）	67（26）	7（4）	1	1（1）	7（4）

数字は人数、（　）はその内の女子の人数

進学者の内、以下の表に示すように約半数が５年制の博士課程に進学し、その他が２年制の修士課程および他大学の大学院に進学する。博士課程は大学教員や国公立研究機関・企業の指導的研究者を、修士課程は高度な専門職業人（企業の研究職など）を養成することが使命であるが、博士課程に進学した者でも、２年で修士号を取得して企業等に就職する者もおり、また逆に修士課程終了後に博士課程に編入し、さらに研究を続ける者も多い。環境科学や医学に興味のある者が各々環境科学研究科、医科学研究科に進学し、農学との接点を求める者がバイオシステム研究科に進学する。高校等の教師を目指す者は、教育研究科に進学する者が多い。

生物学類卒業生の大学院進路（平成12年度）

博士課程（5年）	・生命環境科学研究科	32（12）
修士課程（2年）	・環境科学研究科	2
	・医科学研究科	6（2）
	・教育研究科	5（2）
	・バイオシステム研究科	5（2）
他大学大学院	東京大学	4（3）
	東北大学	1
	名古屋大学	1（1）
	京都大学	1（1）

数字は人数、（　）はその内の女子の人数

博士課程の修了者は、以下の表に示すように、企業に就職する者に加え、大学教員や国公立の研究所の研究員を目指して、期限付きの研究員として活躍している。一方、修士課程の修了者は、多くが企業に就職するが、博士課程に編入する者も多い。教育研究科では、教員になる者が多い。

大学院修了者の進路（平成13年度）　平成14年5月1日現在

研究科	修了者	企業	教員	公務員	進学者	復務・帰国	研究員等
博士課程							
生物科学	15(4)	6				1	8(4)
修士課程							
環境科学	111(34)	53(11)	3(2)	9(2)	20(6)	12(5)	14(8)
バイオシステム	71(31)	35(15)	1(1)	5(3)	15(4)	2(1)	13(7)
医科学	54(30)	26(15)	1(1)	4(2)	19(11)	1	3(1)
教育	152(87)	8(7)	49(20)	6(4)	6(4)	56(31)	27(21)

数字は人数、（　）はその内の女子の人数

学類卒業生および大学院修了者の就職先企業等は、生物学類パンフレットの21ページに掲載されている。学類の卒業生は、生物関連企業に限らず多彩な分野に進出している。一方、大学院修了者は、製薬会社や食品会社をはじめとした生物学に関連した企業に就職している。また大学教員や国家公務員になっている者も多い。

以上の説明の反省点としては、時間の関係でやや急いで説明した点と、学類卒業生が大学院進学後にどの様な進路を歩んでいるかの資料が整備されていない点である。後者に関しては今後、大学院と連携して資料の整備を進める必要が有ろう。卒業生のほとんどが研究志向であるという、現在の生物学類生のきわだった特徴を分かってもらえたと期待している。

Contributed by Shinobu Satoh, Received August 8, 2002.